



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月28日

上場会社名 株式会社日本ケアサプライ 上場取引所 東  
 コード番号 2393 URL <https://www.caresupply.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高崎 俊哉  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 大芝 生生 TEL 03-5733-0381  
 四半期報告書提出予定日 2022年1月28日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	17,281	11.3	1,811	△14.8	1,839	△14.1	1,237	△12.1
2021年3月期第3四半期	15,526	9.6	2,126	32.1	2,141	32.4	1,407	33.9

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 1,232百万円 (△13.2%) 2021年3月期第3四半期 1,420百万円 (36.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	79.63	—
2021年3月期第3四半期	90.61	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数字となっております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	20,645	15,083	73.0
2021年3月期	20,224	14,606	72.2

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 15,076百万円 2021年3月期 14,599百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	46.00	46.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期(予想)				60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日(2022年1月28日)公表いたしました「2022年3月期 配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,600	7.5	2,500	△4.3	2,500	△5.2	1,650	△4.8	106.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	16,342,400株	2021年3月期	16,342,400株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	804,543株	2021年3月期	804,512株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	15,537,886株	2021年3月期3Q	15,537,903株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(追加情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、新たな変異株の感染拡大が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

介護保険制度の福祉用具貸与におきましては、12月の社会保障審議会介護給付費分科会で「排泄予測支援機器※」が介護保険の福祉用具販売の新規種目として追加されることとなりました（2022年4月より介護保険適用の予定）。高齢者の自立支援や介助者の負担軽減などを図るものとして、今後この介護機器の普及により、介護の質と生産性の向上が期待されております。

このような状況下、当社グループは、役職員の日々の感染予防、健康管理の強化、職場における感染拡大防止策を講じるなどの対策を行い、福祉用具や食事サービスの安定供給を通じて、卸の立場ながらライフラインとしての役割を担うため、事業の継続に努めるとともに、新型コロナウイルス感染拡大により常態化した営業活動の制限への対応にも取り組んでまいりました。

福祉用具レンタル卸においては、新たな事業者支援策として、2020年6月よりオンラインセミナー「グリーンケアフォーラム」を開催してまいりました。特定のタイムリーなテーマに対する識者の講演により質の高い情報発信に努め、当第3四半期連結累計期間においては全9回開催することができ、大変ご好評をいただきました。また、オリジナルカタログでは、福祉用具専門相談員のカンファレンスを支援する内容の充実を図りました。

Webによる非対面での生活支援物販においては、事業者向けECサイト「グリーンケアオンラインショップ」のキャンペーンの実施により利用促進を図り、受注拡大に努めました。また、食事サービスにおいては、「ふつう食」に行事食のラインナップ追加や栄養価を高めた「ムース食」にリニューアルするなど、冷凍弁当メニューの拡充を行いました。

拠点展開においては、都市部の需要増加に対応した新規の拠点開設や倉庫大型化に向けた既存拠点の移転を推進しております。前連結会計年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、新規の拠点開設や既存拠点の移転の時期に影響が出ておりましたが、当第3四半期連結累計期間においては、5営業拠点（2021年4月「三重営業所」、5月「仙台営業所」、9月「湘南営業所：湘南ステーションを拡大し、営業所化」、11月「長岡ステーション」、12月「広島営業所：旧広島営業所は新広島営業所の洗浄・消毒拠点として全面改修を行い、2022年4月に開設予定」）を移転することができました。なお、当第3四半期連結会計期間末現在の営業拠点数は88拠点となっております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、レンタル・販売が堅調に推移し、売上高17,281百万円（前年同期比11.3%増）となりました。

利益面では、レンタル売上の増加に伴い、レンタル資産の購入による減価償却費や物流費の増加、人員数の増加による人件費の増加、営業拠点の移転による開発費用の増加などにより、営業利益1,811百万円（同14.8%減）、経常利益1,839百万円（同14.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,237百万円（同12.1%減）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。そのため、当第3四半期連結累計期間における各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※「排泄予測支援機器」：膀胱内の尿の溜まり具合を可視化するとともに、排尿タイミングを知らせる介護機器。

### (2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ421百万円増加し、20,645百万円となりました。主な要因は、流動資産の受取手形及び売掛金93百万円増加、レンタル未収入金154百万円増加、短期貸付金1,650百万円減少、固定資産のレンタル資産（純額）1,439百万円増加及びその他（純額）321百万円増加、投資その他の資産59百万円増加等によるものであります。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ55百万円減少し、5,562百万円となりました。主な要因は、流動負債のレンタル資産購入未払金336百万円増加、未払法人税等408百万円減少等によるものであります。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ477百万円増加し、15,083百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益1,237百万円の計上による増加、配当金714百万円による減少等によるものであります。自己資本比率は、前連結会計年度末の72.2%から0.8ポイント増加し73.0%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期通期の連結業績予想といたしましては、当第3四半期連結累計期間の業績は順調に推移しており、現時点におきましても、事業環境の大きな変化を想定していないことから、売上高は22,600百万円、営業利益は2,500百万円、経常利益は2,500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,650百万円を見込んでおり、2021年5月7日付「2021年3月期 決算短信」に記載の予想に変更はありません。

業績予想は、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定等に基づいて作成しております。今後の国内外の経済情勢、事業運営における状況の変化、見通しに内在する様々な要素や潜在リスク等の要因により、結果的に実際の業績が見通しと大きく異なることがあります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	677,472	670,244
受取手形及び売掛金	845,502	939,282
レンタル未収入金	2,294,194	2,448,375
有価証券	999,994	999,994
商品	39,371	44,130
貯蔵品	38,350	41,081
短期貸付金	2,650,000	1,000,000
その他	299,695	324,555
貸倒引当金	△11,147	△11,147
流動資産合計	7,833,435	6,456,517
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産(純額)	8,952,537	10,392,346
その他(純額)	1,651,167	1,972,289
有形固定資産合計	10,603,705	12,364,636
無形固定資産		
投資その他の資産	200,508	176,686
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,587,681	1,647,624
貸倒引当金	△1,304	-
投資その他の資産合計	1,586,376	1,647,624
固定資産合計	12,390,590	14,188,947
資産合計	20,224,026	20,645,465

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	642,529	675,827
レンタル資産購入未払金	886,498	1,222,901
未払法人税等	620,070	211,338
賞与引当金	277,836	148,064
レンタル資産保守引当金	1,222,800	1,325,200
その他	851,272	806,143
流動負債合計	4,501,006	4,389,475
固定負債		
長期借入金	20,000	10,000
退職給付に係る負債	963,274	1,033,849
その他	133,708	128,934
固定負債合計	1,116,983	1,172,783
負債合計	5,617,990	5,562,259
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,897,650	2,897,650
資本剰余金	1,641,650	1,641,650
利益剰余金	10,436,399	10,918,249
自己株式	△414,961	△415,005
株主資本合計	14,560,737	15,042,544
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,378	25,672
為替換算調整勘定	1,706	6,508
退職給付に係る調整累計額	3,863	1,884
その他の包括利益累計額合計	38,948	34,065
非支配株主持分	6,349	6,595
純資産合計	14,606,035	15,083,205
負債純資産合計	20,224,026	20,645,465

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	15,526,687	17,281,491
売上原価	9,297,603	10,630,740
売上総利益	6,229,084	6,650,751
販売費及び一般管理費	4,102,921	4,839,586
営業利益	2,126,163	1,811,165
営業外収益		
受取利息	641	534
為替差益	-	3,368
持分法による投資利益	7,331	20,186
補助金収入	6,588	1,861
その他	1,847	2,834
営業外収益合計	16,409	28,786
営業外費用		
支払利息	5	6
為替差損	930	-
営業外費用合計	935	6
経常利益	2,141,637	1,839,945
特別利益		
受取保険金	-	21,551
特別利益合計	-	21,551
特別損失		
固定資産売却損	526	-
固定資産除却損	225	1,077
投資有価証券売却損	12,782	-
投資有価証券評価損	5,117	-
特別損失合計	18,651	1,077
税金等調整前四半期純利益	2,122,985	1,860,419
法人税等	713,926	622,866
四半期純利益	1,409,058	1,237,552
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,164	245
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,407,893	1,237,306



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,409,058	1,237,552
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,948	△7,706
退職給付に係る調整額	△226	△1,978
持分法適用会社に対する持分相当額	△327	4,802
その他の包括利益合計	11,395	△4,882
四半期包括利益	1,420,453	1,232,670
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,419,288	1,232,424
非支配株主に係る四半期包括利益	1,164	245

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、従来は、顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先等に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしております。また、従来は、事後的に顧客から受け取る対価の総額に増減が生じる取引については、増減金額が確定した時点で対価を変更する方法によっておりましたが、顧客への財又はサービスの提供時に合理的に見積もった変動対価を増減する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の利益剰余金が40,713千円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える損益への影響は軽微であります。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症に関する仮定について、重要な変更はありません。